



「幸せの予感」 2009.4 イングランド・チェスター

最近 IOT (アイオーティ) という言葉をいろいろと耳にされることが多いと思いますが、弊社顧問森本和義様主催の第 36 回あすづくり研究会

「IOT (アイオーティ) を身近な技術に! 町工場でも成果の出る製造ライン遠隔モニタリング」

に参加してその本領を見聞することができました。講師は、旭鉄工業株式会社代表取締役社長・木村哲也様。木村様はトヨタ自動車に 21 年勤務。主に車両運動性能の先行開発・製品開発に従事。また、生産調査室でトヨタ生産方式の内製工場及び社外の指導も経験。2013 年に旭鉄工移籍後、組織や仕事の進め方など含め経営全般を大きく改革。特に生産性についてはトヨタ生産調整室での経験を生かし改善を推進。その中で製造ライン遠隔モニタリングシステムを構築・運用し大きな効果を上げる。東京大学大学院工学系修士修了。兵庫県出身、49 歳の気鋭。彼は自社工場の生産効率向上の一環として、IOT 技術を生産現場に活用し、各種設備稼働状態をリアルタイムで手軽にしかも安価に監視分析できるシステムを社員と共に開発し、しかもこれを世間のモノづくりの現場に広くひろめるために新会社を立ち上げた。



導入のきっかけは増産依頼 IOT を導入したのは、愛知県碧南市でエンジンやブレーキなどの部品を作っている自動車部品工場です。昭和 16 年の創業で、機械の半分は導入して 20 年以上経ちます。木村社長は 2 年前、大手自動車メーカーから増産依頼を受けました。そのために新たな機械を導入しようと思っても、資金にもスペースにも余裕はありませんでした。お金をかけずに生産性を高めるにはいまの機械を改善するしかない。そこで目を付けたのが IOT でした。木村社長は「改善のためには、まず、現在のラインが、いづれだけ止まり、部品を 1 個作るのに何秒かかるのか、正確に把握する必要

がある。いまの IOT 技術を使えばそれが簡単にできるのではと気が着きました」と導入のきっかけを振り返ります。データを集めるため、木村社長たちは、古い機械に直接センサーを取り付けることにしました。250 円の磁気センサー、50 円的光センサーをそれぞれ昭和 53 年製の機械に取り付け、センサーが読み取ったデータは、無線でインターネット上に送られ、スマートフォンやタブレット端末で確認できます。集まったデータを見ると、部品ひとつを作るのに何秒かかったかが、0.1 秒単位で表示され、機械が止まった時刻や、その停止時間も一目でわかるようになりました。そしていろいろなおもに気づきや疑問が生まれ、どうしたら直せるかと考えるようになりました。



この記事をご覧になりご関心(説明会にしたい・会社で説明してほしい)をもたれた組合員様はご連絡ください(090・9905・0757 鹿島)

春光うらかな好季節を迎え皆様には益々ご隆盛のこととお慶び申し上げます。大手広告代理店新入社員による過労自殺以降、国の成長戦略としても働き方改革が進んでいます。主には長時間労働の是正や同一労働同一賃金といった非正規雇用の処遇改善ですが、企業にとってがなじがらぬの時間管理は企業経営にはマイナスに働く可能性もあり働き手の自由度を損なう恐れもありと経済紙も述べており、中小企業にとっては大変厳しい条件を突きつけられるといっても過言ではないと思われまます。しかし諸国に比して低いとされる労働生産性の向上は企業経営の喫緊の課題であり、今以上に企業自身が改革を進めなければ労働人口が減少を続けるこの国において事業の継続が困難となります。企業会計、労務、外国人技能実習生の受け入れ、企業の経営診断を事業として行っている我が組合の存在意義が問われる事業年となりそうです。世界の激変が予測される今こそ組合理念を再確認し相互扶助、自助自立を目的として連帯経済の主要な担い手となることを改めて申し上げるとともに、更なる向上の為、組合員の皆様の不断のご支援ご協力をお願い申し上げる次第です。

愛知商工連盟協同組合 代表理事 鹿島均

ベトナム化しないという大前提

湾岸戦争でのアメリカはベトナムの影と戦っていた。：：当時の指揮官たちの回顧録は、そんな記述に満ち溢れている。十年あまりの介入の末に惨めな敗北を喫したベトナム戦争は、アメリカ社会に広範囲で深刻なダメージを与えた。士気が見る影もなく低下した米軍は、徴兵制が廃止され募兵性に切り替えられた。戦争に反対・消極的なグループ(クリントン大統領が徴兵のがれとして大統領選挙のときに攻撃を受けたのは記憶に新しい)と、賛成したグループの亀裂は大きく社会復帰できない帰還兵の問題は長く尾を引いた。アメリカ社会には、ある意味での戦争アレルギーが植えつけられたのだ。

だからこそ、湾岸戦争時、アメリカの指導者たちは神経質なほど「ベトナムのようにならない」と強調する必要があった。国民の多くが「ベトナムの二の舞になるのでは」という思いに傾いたとたん、有権者たちの動向に敏感な国会議員が戦争遂行にノーにまわり、開戦も戦争の継続も不可能になる可能性すらあったからだ。しかも当時、米軍の実質ナンバーワンであった統合参謀本部のコーリン・パウエル議長(一九三七～)そして実戦の指揮官であったノーマン・シュワルツコフ将軍(一九三四～二〇二二)ともに、ベトナムの現場に参加し、辛酸を舐めた経験を持っていた。特にシュワルツコフ将軍は、ベトナムの地雷原に取り残された一人の部下を助けるために、膝がガクガクになりながら地雷原に踏み込んでいったという壮絶な経験の持ち主だ。湾岸戦争の際、地雷原を恐れず総て経験の持ち主ではないかと質問する記者に対して、シュワルツコフはみづから経験を語り、その記者を沈黙させたことがあった。ベトナム化しない：：これは、まず長期戦の泥沼化にはまらず、また何をおいても短期決戦で済ませるといふことだ。さらには、アメリカ本国から戦場の指示を出して現場を混乱させない、欺瞞をうまく使って敵を混乱させる、ということも意味するだろう。

この三つはまるで「孫子」の言葉そのままのような教訓だ。実は、ベトナム戦争後、アメリカはその敗因をクラウゼビッツの「戦争論」や「孫子」といった、古典の研究によって見出そうとした経緯がある。特に「孫子」は、実質的にベトナム戦争後初めて実践に活用すべき軍事理論として、スポットライトが当たったようだ。ベトナム戦争で現地の司令官だったマックス・テラー将軍が、知性派の証しと

軍人は平和主義者、戦争遂行者は戦争を知らない政治家たちだった。

米軍指導者による熱心な孫子研究

「孫子」は、実質的にベトナム戦争後初めて実践に活用すべき軍事理論として、スポットライトが当たったようだ。ベトナム戦争で現地の司令官だったマックス・テラー将軍が、知性派の証しと

Vol.31 2017年 4月

- 2 page 八風吹けども動ぜず ふっと心がかかるくなる禅の言葉 ☆ コスモ文庫
- 不動産の共有名義で「困った!」その三 司法書士 林 清忠
- なごの相談所「引退 その二」 幸福相続相談センター 支配人 山口 徹
- 3 page 日本独自の新たな解を ドラッカー時代を超える言葉 上田 惇生 著
- 時代のキーワード「ダイバーシティ」 米国トランプ大統領の言動に世界中が一喜一憂。MBA100の基本 グロービス著、嶋田毅執筆 ☆ 東洋経済新報社
- 068 嘘には 3 種類ある。普通の嘘と真っ赤な嘘と、統計だ 069 平均値は平均の像ではない
- 4 page 第 36 回あすづくり研究会 「IoT」を身近な技術に! 町工場でも成果の出る製造ライン遠隔モニタリング、「和」の国、日本。 最強の孫子・戦いの真髓 守屋淳著 ☆ 日本実業出版社

して「クラウゼビッツの頭脳を持つ」と評されたことに象徴されるように、どうも米軍はベトナム戦争までは、戦略といえばクラウゼビッツ一辺倒だったようだ。そして、敗戦を契機にアメリカの軍事指導者たちは「孫子」を熱心に学ぶようになる。たとえばシュワルツコフ将軍は、まずその戦争観からしてが、「孫子」や中国古典の兵書と軌を一にしている。

《戦争は冒険的行為である。なぜなら、ぶちまけていえば、二つの対立する陣営が相手方の人間をできるだけ多く殺害することで争いに決着をつけようとするのが戦争だからだ。その現実を見据えれば、これはまさに冒険である》
《多くの点からみて、私は平和主義者である。その言葉は言いすぎかもしれないが、私は戦争がどんなものかを知っている。私は戦争反対の立場をとる。だが同時に、この世には戦い取る価値があるものも存在すると信じている》
《戦争に勝って、平和に負けるようなまねはしたくないんだ》

冒頭の言葉は「兵は不詳の器(三略)」という中国思想と、クラウゼビッツの言葉を掛け合わせたような思想だし、後の二つも「孫子」の描く優先順位や、「長期的な目標を達成してこそ勝利」という発想ときわめて似通っている。

実際、シュワルツコフ将軍は、「勝利の鍵は、シュワルツコフが長年研究してきた古典的な兵学を巧みに応用したことにあった」と評されるように、「孫子」に精通し、それを実践に活かしていた。湾岸戦争で採るべき戦略を A.P 通信の記者にインタビューされた際にも「私はこちらの強みを相手の弱みにぶつけた。」「孫子」虚実篇にある「実を避けて虚を撃つ」という言葉をもって答えている。

騙し合いに満ちた戦争

湾岸戦争は騙し合いに充ち満ちた戦いでもあった。イラクとの地上戦に突入する際には、陽動作戦として偽のプラスチック製ヘリコプターや戦車と百五十人の兵士が配置された基地がつくられ、わざとイラク側が傍受できるように、無線で二七情報までやりとりされている。さらにペルシャ湾岸には米軍の誇る海兵隊が待機し、イラク奪回の際には海から奇襲作戦を行う構えを見せるが、これも実は見せかけだけで、イラク軍を足止めさせるためだけのものだった。

最強の孫子・戦いの真髓

守屋淳著 日本実業出版社